

令和3年度 大和市立病院運営審議会 会議録

(第1回)

日時 令和3年10月26日(火)

午後7時から

場所 大和市立病院 3階 講堂北

- 1 市長あいさつ
- 2 各委員自己紹介
- 3 病院長あいさつ
- 4 病院職員紹介
- 5 会長及び職務代理の選出
- 6 (報告) 令和2年度決算報告について
- 7 (報告) 経営計画の進捗状況について
- 8 (報告) 地域医療支援病院に関する報告について
- 9 その他
- 10 閉会

令和3年度 第1回 大和市立病院運営審議会 会議録（要点筆記）

開催日時 令和3年10月26日（火）午後7時～午後8時15分

開催場所 大和市立病院3階 講堂北

出席者 横田委員（医師会） 楠原委員（医師会） 木山委員（医師会）
青木委員（市議会） 布瀬委員（市議会） 相澤委員（利用者の代表）
小川委員（利用者の代表） 南淵委員（学識経験者） 加藤委員（市長の認めた者）

欠席者 川淵委員（学識経験者）

事務局 病院長 事務局長 病院総務課長 総務調整係長 施設用度係長
医事課長 医事・入院係長 外来係長 診療情報管理センター長
診療情報管理係長 地域連携科長 経営戦略室長 経営戦略係長
ほか事務局2名

議題 令和2年度決算報告、大和市立病院経営計画の進捗状況について、
地域医療支援病院について

- 1 市長あいさつ
- 2 各委員自己紹介
- 3 病院長あいさつ
- 4 病院職員紹介
- 5 会長及び職務代理の選出
 - ・委員推薦により、横田委員が会長に選出。
 - ・会長からの指名により、青木委員が職務代理に指名。

6 (報告) 令和2年度決算報告について

(事務局)

「資料1」に基づき説明。

(委員)

「病院事業費用のF：経費」で、リニアックの関連保守費用が約6,000万円というのが、とても高額な金額ですが、そこについて説明してもらいたい。

(事務局)

リニアックに関しては、管球等が故障してしまいますと、修理で高額な費用がかかりますので、フルメンテナンスのサポートで契約を締結させていただいております。

他に、リニアックと併せまして、その治療計画する装置と、その関連の機器を全て含めまして、3台を一括して、この保守費用をお支払いする予定でございます。

(委員)

他に、医事業務の委託の約3,800万円について説明してもらいたい。

(事務局)

以前は、この委託事務を会計年度任用職員で行っておりましたが、その部分を委託し、約3,800万円が経費として増えております。しかし、人件費がそれ以上減っておりますので、トータルとするとプラスになっております。

(委員長)

どうもありがとうございます。

令和2年度は新型コロナの関係で、比較ができない年と思いますが、結果的には黒字決算となり、いろいろ苦労があったと思いますが良かったと思います。

その中で市立病院が他の病院と比較してどうなのかというのが気になりますが、資料の中の「類似病院」というのはどのような病院なのでしょうか。

また、この資料はその類似病院の前年度との比較をしているということでしょうか。

(事務局)

資料の類似病院というのは、全国の病院の中で、経営主体が市であり、さらに病院規模が400床以上500床未満という括りで示しております。

従って、同じ令和2年度の比較というのは、全国の集計がまだできていないような状況でございますので、あくまで1年前の比較というところでお示しました。

(委員長)

令和2年度と比較して、ポイントなどを表に出すのは、あまり意味のあることではないような気がしますがいかがでしょうか。

(事務局)

確かに今回はコロナがありましたので、単純な比較が難しいかと思えます。例年はそれなりの意味があるのかもしれないというところで資料をお示ししているのですが、コロナ禍

でありました令和 2 年度につきましては、あまり参考にならないようなところが正直あるかと存じます。

(委員長)

どうもありがとうございます。

他に何かご質問ございますか。

(委員)

「4 収支改善に向けたその他の取り組み」の 3 番で、外来系当直体制の見直しということで、経費削減のため、非常勤医師の報酬を削減して、常勤医が土日の当直を受け持っているということですが、その土日働いた場合は、代休をきちんと取得できているのか確認させていただきたい。

(事務局)

医師の場合、当直という形をとっております。また、直近の医師の数もある程度充実してきております。そのため、常勤医が土日の当直を受け持つことによって、医師の働き方がハードになるということがないように行っております。

(委員)

令和 2 年度はコロナで特別な年だったので、この資料を細かく分析してもあまり意味がないところがあるかもしれません。

次年度以降、市立病院としてこれを推進していきたい等、何かありましたら教えていただきたいのですがいかがですか。

(事務局)

この度、当院では経営計画を延伸しましたが、その中で、市立病院は重点項目を設定させていただきました。三つございます。

一つ目は、救急応需率の向上です。

二つ目は地域医療支援病院として、病診連携のさらなる推進です。

三つ目は看護体制の再構築ということで、こちらの 3 本柱を中心にアフターコロナに向けて全力で取り組んでいく次第でございます。

(委員長)

ありがとうございます。

他にご質問ございますか。

(委員)

今のお答えで、看護体制の再構築とありましたが、資料の指標として、看護師の数が類似病院と比べて少ないとなっております。今後、採用人数を増やすなど、そのような意味での再構築なのでしょうか。再構築という中身を教えてもらえないでしょうか。

(事務局)

今までは病床の利用率などに合った看護師数ということで採用しておりました。また、採用についても、厳しい部分がありまして、なかなか思うように採用できないというところが

ありました。

ただ、現在の病床の利用率に合った採用ということになりますと、このコロナのような急激な状況変化に対応できない場合もございますので、「目標とする患者数」に対応する看護師の採用を考えていこうと思っております。

令和2年度も最初はコロナ禍のため、5月の採用試験が実施できないなどございましたが、令和3年度は採用試験を複数回おこなっておりまして、看護師確保のために工夫をしております。

(事務局長)

看護体制の再構築の取り組みについては、看護業務というものを可視化して、看護師でなくてもできる業務を洗い出し、タスクシフトを検討し、看護師の業務の軽減につなげていきたいと考えております。

当院は、急性期病院であり、入院収益を上げなくては病院事業収益の改善には繋がらないので、特に外来看護業務をタスクシフト等により軽減し、入院の看護体制を強化しながら、占床率の向上に結び付くよう取り組むことが求められます。

看護補助員、事務作業補助者を活用し、他院の取り組みも参考にしながら、看護体制の見直しに取り組んでまいります。

(委員長)

ありがとうございました。

7 (報告) 経営計画の進捗状況について

(事務局)

「資料2」に基づき説明。

(委員)

職員の満足度調査ですと場合と64%ということですが、36%の方々がどのようなことに対して満足していないと答えているのでしょうか。

(事務局)

今回の調査につきましては、「仕事のやりがい」、「人間関係」、あるいは「処遇」、「労働時間」、「給料」など、いずれかで「満足している」と一つでも答えれば「満足している」ととらえた割合でございます。

但し、まだ何が不満だというところまで、細かく分析をしきれていないような状況です。

(委員)

分析がすすめば、改善すべきところが出てくるのではないかと思います。

他に、患者満足度調査について、説明の中で、回答している層が変わった、若い層の方が増えた、と説明がありましたが、層が変わったことによって、どのような感じのことを満足していない、良くないと言われていたのか分かりますでしょうか。

(事務局)

特に「これについて満足していない」というのが明らかに出ていたというわけではございませんでした。

一般的に、患者満足度調査を行いますと、満足度が低く出やすいのは、待ち時間や、フロアの状況というようなところ、他に環境面などでございます。今回もそういったところでは、これまでと基本的に変わりませんでした。

(南淵委員)

患者満足度調査も職員満足度調査もアウトソーシングするということにはならないのですか。

(事務局)

私どもではアウトソーシングして、まだコストをかけるところまで思いが至っておりません。まず自前でやってみようということで毎年行っております。

また、バイアスがかかってしまいますが、生の声をいただけるということで、それを期待して毎年実施しております。

(事務局長)

委員のご指摘のとおり、アウトソーシングにより適切な情報を収集し、病院経営に活かすことは効率的なことであると考えます。

しかしながら、病院職員が、病院への意見聴取として、アンケート項目やアンケートの取り方を検討し、協議していくこと自体が病院運営について意義のあることであると考えます。

いかにアンケート結果を病院運営に活かせるか、今後も協議してまいります。

(委員長)

他になにかご質問はございますか。

(委員)

一つは地域連携の返信の件についてです。いろいろ改善を試みてらっしゃると思うのですが、やはり事務職員から受診したときの「受診しました」というお手紙以降、先生からどうなったかという経過を教えていただけないケースが多くあります。

診療科によってはすごく丁寧なお手紙をいただけるのですが、患者が戻ってきたときに、どうなったのか全く情報がなく困るケースが多々あります。そこはやっぱり我々側からすると、不親切ですのでぜひ改善を希望します。

あとこれも毎回同じように言っていますが、救急応需率が80%近いって結構良い数字なので、ここを上げていこうとすると大変だと思います。ただ、この応需率の出し方をどのようにしているのか。電話を受けた事務担当者が、その場で断ってしまうケースがあると思いますが、それも「1」として数えているのでしょうか。それも含めて、数字の出し方が全ての電話に対して80%だったならば、救急の件数ももっと多いと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局長)

まず、救急について、お答えさせていただきます。当院は救急応需率の向上を重点課題として取り組んでおります。

そこでまず、救急を断るのは、看護師等ではなく、医師自ら断る対応を行っております。

また、救急不応需についても、なぜ不応需になったかを、副院長等が案件をピックアップし、院長ヒアリングにより、その原因を分析し、改善していく対応を行っております。

しかしながら、県央二次医療圏の中で、救急受け入れ件数は比較的上位に位置しておりますが、救急車受け入れ件数は、若干低い面もありますので、今後対策を検討してまいります。

(委員)

救急応需の際、ドクターに必ず回すようにするというのは素晴らしいと思います。各ドクターもなかなか断りづらい部分もあると思います。それであれば今後救急応需率は上がっ

ていくと思います。

(事務局)

次に返信についてお答えします。事務職員は必ず返信しているのですが、ドクターからの返信が遅いということは確かにあります。

昨年のご意見いただきまして、今年度入ってから、返信がシステム上「未」、返信していない患者さんについては、そのリストを出しまして、各ドクターに直接、この患者さんたちが「未」になっているということで配って、返信するように呼びかけをしております。

ただ平均値として、返信率は95%ほどに上がってきてはいるのですが、ただ時期が遅いということもございまして、ご迷惑をお掛けしているなと感じております。

なるべく返信するようにと医師には言っておりますので、もう少しお待ちいただければと思います。

(委員)

ありがとうございます。

では、最終的にはだいたい返信を行っているっていうことでよろしいでしょうか。

(事務局)

はい。

(委員長)

私も救急の部分について一言。救急応需で「チャレンジ90」という目標を定めているので、90%という目標を達成できるようにぜひ頑張ってくださいと思います。

他に何かございませんか。

(委員)

がん患者の相談件数が減っているということですが、コロナ禍でも相談をできるだけのような体制を整えているのでしょうか。教えてください。

(事務局)

がん患者の相談件数が減っているのは、コロナ禍で患者さん自体が減っていることが一つの要因かと思います。

患者サポートセンターでは、がん相談支援センターを設けて、「いつでも来てください」という対応をしているのですが、やはりどうしても患者さんが少ないと、支援センターに来る方が少ない状況です。また、「電話の相談もあります」と呼びかけてはいましたが、どうしても件数は増えなかったという状況でございました。

(委員)

いろいろ相談に乗れるような体制を工夫をとって欲しいなと思います。

8 (報告) 地域医療支援病院に関する報告について

(事務局)

「資料3」に基づき説明。

(委員長)

「資料 1-ウ 開放病床の利用実績」について。これは我々医師会とともに共同で行おうという趣旨で始められたところだと思うのですが、かなり利用率が減っているかと思えます。今後、存続の必要性等も含めて考えていかななくてはいけないことなのかなと医師会としては思っております。

また何かご意見ありましたら、医師会も考えをまとめまして、ご提案していきたいと思えます。よろしく願いいたします。

9 その他

(委員)

最後に、ワクチンの接種のおかげで、大和市内の方や、全国的にコロナの発生率が減ってきたのかなと思うところがございます。

しかしながら、第6派の心配もそれは目を背けてはいけない事実だと思います。

市立病院はドクターや、看護師、技術職の方々、また事務方、関係機関の方々がいらっしゃることで運営されていると思えます。

また、令和2年度の決算数字をみますと、ワクチンに関する補助金のおかげで、黒字になったと見受けられるところがございますが、現在でも収支改善や働き方改革にも取り組んでいるということでもありますので、今後を期待しております。

今後も、職員の心身という意味で、体調管理に十分に留意をしていただき、地域の医療機関との連携を大事にさせていただいて、市民のための病院に今後さらに努めていただきたいと思えます。

(委員長)

ありがとうございます。

貴重なご意見やご質問ご意見だと思います。

事務局は、委員各位のこの思いを受け止めて、病院経営により一層励むよう期待いたします。アフターコロナのときに、病院がまた経営難でというようなことにならないように、アフターコロナの地域の中核病院として、市立病院が市民のために、安心して、好かれる病院であってほしいと我々常に願っておりますので、今後もよろしく願いいたします。それでは、皆さん長時間にわたりお疲れ様でした。 どうもありがとうございました。

以上